

おゆみ野の森とふれあい公園

後藤菊子

新型コロナウイルスの感染がまだまだ広がっている十一月の下旬、緑区の「おゆみ野の森」に出かけてみた。緑区といつても我が家（中央区）から徒歩二十分程の京成千原線「学園前駅」から歩いて三分程のところにある自然公園である。「市民緑地制度」（緑地を地権者・市・市民の三者で守り育てる）の第二弾として二〇〇七年にオープンした。（因みに第一弾は「小倉自然の森」）

整備前は都市再生機構が宅地開発用地として所有していたが、貝塚や古墳などの遺跡が発見されたため開発を中断、同制度を活用して緑地として保全する方針を決めた。整備にあたってはコナラ、シイ、スギなどを多く残した。草刈りや清掃などの維持管理は周辺自治会メンバーなど「おゆみ野の森を育てる会」の皆さんに行っている。森の面積は約三ヘクタール。コナラ、クヌギ、ヤマグリ、スギ、また、ムラサキシキブ、ガマズミ、ゴンズイ等の実の生る木々も多く、ノウサギやキジなどにも出会えることもある。小鳥の声を聞きながら歩いていると散歩をしている近隣の方々にも出会える。ボランティアの方々が四季折々に色々な計画を立てて楽しい行事があるようである。

隣接する「ふれあい公園」の入り口には、近くの扇田小学校の協力で「地層の壁」というガラスケースに泉谷公園東側にある六通貝塚の貝塚の断面をはぎとつた貝層が展示されている。周辺には、縄文時代後期の貝塚（ハマグリ・イボキサゴ）、住居跡は台地の南側にあつたようである。また貝塚の南側には、一五〇〇年前の古墳も残されている。

森一面の落ち葉を踏みしめて歩いているとムラサキシキブの実がだいぶ残つていた。美しいこの実を見ると紫式部の「紫式部日記」を想つてしまふ。

式部の実君の秘密を知りたくて

しばらく行くと枝先にミノムシがぶら下がつっていた。
騒がしき世に蚕虫の風まかせ

公園内や森には何台もの木のベンチやテーブルが設置されていた。ベンチに掛けて少しやすんديいると初冬の真つ青な空が何とも美しく・・・

冬晴れや木漏れ日遊ぶ雑木林

公園を出ると大きな団地に出た。団地を抜け、旧い町の路地に入ると何軒もの家々に柿の木が植えられており、熟れた実が夕日に照らされて美しかつた。

熟れ柿の夕日に透けてこぼれさう

大きな旧家の庭の隅に茶の木が植えられていた。可愛らしい花が咲いていて人の話し声が聞こえた。

人声のふくらむ茶の花日和かな

今日も有意義で豊かな一日であった。

町内散策

後藤菊子

新型コロナウイルス渦の日本では、誰もが自粛生活を余儀なくさせられているが致し方ない事だ。しかし時々自然と触れ合うと気分が晴れる。我が家から五分程歩くと曹洞宗の森川山重俊院がある。生実藩一万石森川氏の菩提寺である。

本堂左脇から入った裏手の木立の中には、藩祖森川重俊をはじめ歴代藩主とその一族の船形の雄大な墓碑四十六基が林立している。明治の廢藩置県に至るまで転封もなく続いたことは、当時の房総の大名の中では珍しい事である。

藩祖の重俊公は徳川二代将軍秀忠に仕え、老中職にも列した。1632年（寛永九年）秀忠の死を追つて殉死した。当時に想いを巡らしながら、重俊公の墓碑の前の銀杏の巨木を見上げると寒の空がピーン張り詰めていた。

寒の空銀杏大樹のゆるぎなし

本堂に戻り新型コロナウイルスが一日も早く収束することを祈った。境内を見渡すとムクロジの木々には沢山の実が付いていた。早咲きの梅もちらほら咲き始めていた。日当たり良い境内のベンチに近所のお年寄りと顔に傷のある大きな老猫が日向ぼっこをしていた。お年寄りはすでに夢心地・・・

老いてなほ勝利の傷か恋の猫

居眠りは猫より先に日向ぼこ

のんびりとしてほほえましい景であつた。

寺を出て隣の池を見てみた。オオイヌノフグリ、カルガモ、コガモなどが観られた。池から川に沿つて歩いて行くと川岸に芹が生えていた。川淵に降りて芹を抜いてみた。寒の内の水はまだ冷たかった。

寒芹を引けば雪の尖りをり

日当たりの良いところにはオオイヌノフグリ、ホトケノザなどが可愛らしい花をつけている。もうそこまで春が来ているようだ。

十年くらい前にはこの土手にメハジキなども観られたが、草刈りをされるうちにとうとう観られなくなつた。もう少しすると一面にナノハナが咲き乱れ近隣の方々の散歩コースになる。

サクラなどの冬芽も少しづつ膨らんできているようだ。蕾の中にある秘密を聞いてみたい気がして触れてみた。

秘め事を聞いてみたくて冬木の芽

すぐ前を鴨川方面に行くガラガラの外房線の電車が通り過ぎた。暖かくなつたらキラキラ

光る春の海を見に行けるだろうか？

ガードを潜ると放置田が広がつていた。タネツケバナ、ナズナなどが元気よく生えていた。植物の生命力の強さにはいつも驚かされる。新型コロナウイルスのワクチンに期待して頑張らなくては・・・

身の内に雄心生まれ冬、怒涛